



Autumn-Winter 2019-20

「私にとってダンヒルを定義付ける要素のひとつである‘二面性’を今シーズンもまた軸としながら、思慮深く静かにしかし自信に満ちた、真の‘洗練さ’をテーマにしました。声高に主張せずとも他者を惹きつける、確固たるスタイルをもつ美しい人々。彼らは、時代のムードで様々なテイストを自由に取り入れながら自身のスタイルを再構築していきます。この遊び心こそが、シティとテラスカジュアルの装いの境目を曖昧にした80年代のスローン族に象徴されるように、とても英国らしい一面です。はたまた、質実剛健を美德とする日本にも同様の洗練さをみて大きくインスピレーションを受け、今シーズンの二面性を表現するにあたり重要なエッセンスとなっています。」—クリエイティブ ディレクター、マーク・ウェストン

今シーズンのダンヒルでは、カントリーハウスからアシッドハウスまで、英国ファッション文化の二面性を強く追及しています。伝統と破壊、フィールドとストリート、体系化された要素と新たな概念、英国文化の気ままな側面と社会に根付く階級意識、これらの両面を様々な形でコレクションに落とし込みました。そして、英国スローン族が好んだ、リラックスしたカントリーの装いを取り入れたシティスタイルを、日本の古典主義—特に古来のファッションにみられるユニークなボリューム感などの要素を取り入れ、ダンヒルらしい新たな解釈で提案しています。

クラシックなダブルジャケットに取って代わるのは、ゆったりとしたラップ仕様のテーラリング。日本の着物のようなカッティングが、新しくしなやかなエレガンスの息吹を吹きこみます。80年代のカントリージェンツが愛用したゲートルにヒントを得た、裾がスプリットしたヘムトラウザーズ。シルクファイユやモアレシルクなどのイヴニングウェアに多用される贅沢な生地は、フィールドジャケットやカジュアルテーラリングなど実用的なアイテムに姿を変えています。コーデュロイには優雅に流れるようなカッティングを施してエレガントに仕上げ、テクニカルなアイテムとスタイリングしています。トラディショナルなウールにはカシミアを合わせて、素朴さとは無縁の優美な印象へと昇華させました。

このコレクションにはたくさんの要素やスタイルを取り入れましたが、どれも現代的な装いに自然に馴染むものばかりです。ハイブリッドなハンチング型ベースボールキャップや、しなやかなモヘアのスーツ、ウォールナット・ダッシュボードがプリントされたナイロンのシャツ— 伝統と革新が遊び心たっぷりに調和した、英国メンズファッションの、時代を超越した洗練さを称えています。